



養鶏産業で成功するため (続)

株式会社アスコ附属研究所
顧問 船橋 史憲

前回は雛について話をしましたが、今回は良い餌とはについて取り上げました。

今日本で飼育されている採卵用の鶏はほとんどが外国で改良されており、中には日本の夏の高温・多湿での飼育には不向きの鶏種もあります。(また卵重が大き過ぎるので強制換羽に不向きのものもあります)

一般的にいわれていることに、今養鶏場では夏場の成績が特に良い農場が儲かっていると言われています。では多くの農場で夏場に何が起こっているのでしょうか?

特に若鶏が産卵しながら体重が大きくならず、個卵重が小さくなり、やがて産卵率が低下し、死亡鶏が増えるという例が見られます。そして死亡鶏の病性鑑定の結果をみると大腸菌症とか卵巣性腹膜炎の発生が多くみられます。

上記の原因は産卵と体重の維持、完熟体重までの増体に必要な栄養が量または質で摂取できていないことがあります。夏場の高温時における食下量が90gを割ってしまう場合どんな飼料が適当かの検討はかなり難しくなります。

私の経験では鶏に良い餌を与えていても1.8を割る要求率になると、鶏は痩せだします。日産量50gの群では90g以上の確保、日産量60gの群では108g以上を確保すべし、ということになりますが、暑さの厳しいときにこの食下量が確保できなくなります。

また最近この時期にワクモの大発生も伴い、食下量は益々少なくなっています。一年を通して大玉が安いので産卵開始時よりCP17%の飼料を与えていた農場も多く、特に特殊卵を生産する農場に多いようです。体重を各鶏種のマニュアル体重と比較すると100g~200gも小さいケースもあります。

但し鶏群のバラツキのあるなし、大型鶏の場合1500g以下の鶏がどのくらい出てくるかによって成績が決まります。つまり産卵率を高く維持するにはいかに体重不足の鶏を作らないかにかかってきます。

夏場にピークがくる鶏群の成績を上げるには、室温をさげたり、通風を強化したりしても体重が低下し易い170~260日齢においては、アミノ酸含有物の飼料添加は欠かせません。

いかに体重を維持するかは、餌の力と群毎の正確な食下量の把握と卵の生産量を把握することが必要です。

中国で飼料中の蛋白量を見かけ上あげるために、メラミンを添加したことで卵や鶏肉に残留した事件がありましたが、粉ミルクに添加することで直接人間の健康(29万人になるとの発表)を害しているニュースをみて思い出したことがあります。

日本でも昭和41~3年頃アンメリンを魚粉に添加して見かけの粗蛋白量を高めたことがあって、ブロイラー鶏で大量にアンメリン中毒による盲目症の発生がありました。

飼料が原因のものには、ダークオイル中毒、鶏のクル病、筋胃糜爛、ボツリヌス中毒、スponジ卵、ナイカルバジンやラサロシッドの残留等様々なものがありました。

飼料原料の高騰の煽りで、飼料原料の変更時に発生し易いのは、脂肪肝出血症候群と筋胃糜爛です。今年も何例か発生しています。

良い成績を得るには良い餌が必須条件であり、成績が出ない場合には、病気を疑う前に餌の変更などがなかったかの注意が肝要です。

平成20年の春に飼料の変更後、飼料の力不足のために成績を落とした養鶏場が散見されました。食下量が急に落ちて(ナトリウム不足の時も食欲が落ちる)産卵も低下しましたが、元の餌に変えるとすぐに回復しました。 ご用心 ご用心

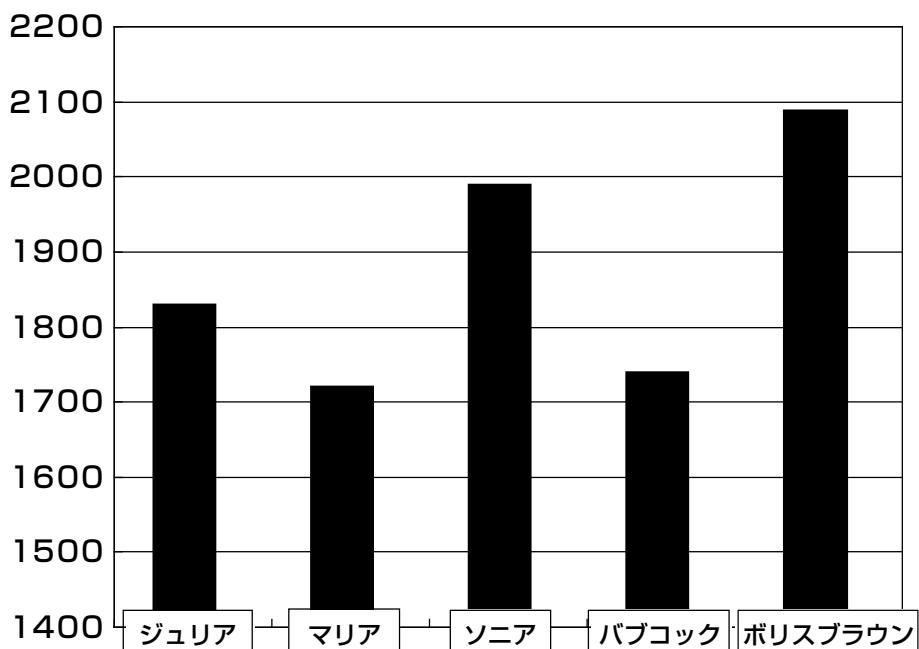


図1 日本の主要鶏種の完熟体重

謹賀新年



日生研の鶏用ワクチン

日生研 鶏 コクシ 弱毒3価生ワクチン(TAM)

日生研 鶏 コクシ 弱毒生ワクチン(Neca)

日生研 C-78・IB生ワクチン

日生研 MI・IB生ワクチン

日生研 NB 生ワクチン

日生研 NB 不活化オイルワクチン

日生研 NBBAC 不活化ワクチン

日生研 ニューカッスル 生ワクチンS

日生研 EDS 不活化ワクチン

日生研 EDS 不活化オイルワクチン

日生研 ILT 生ワクチン

日生研 コリーザ 2価ワクチン N

日生研 ACM 不活化ワクチン

日生研 穿刺用 鶏痘 ワクチン

日生研 乾燥 鶏痘 ワクチン

AE 乾燥生ワクチン

日生研 IBD 生ワクチン

日生研 MG 不活化ワクチン N

日生研 MG オイルワクチン

日生研 MG オイルワクチン WO



日生研株式会社 <http://www.jp-nisseiken.com/>

〒198-0024 東京都青梅市新町9-2221-1 ☎ 0120-31-5972